



1 明北小 6 年『今年も運動会はするの？ もちろん！！』 7 月

『もう運動会！？』（6 学年だよりから）

10 月に行われる運動会について考え始めました。「今年も運動会はするの？」と尋ねると、「もちろんする！！」と元気な返事がありました。6 年生ともなると、音楽会同様に運動会に対しても強い思いをもっており「安全」「協力」「全力」など、様々な考えを詰め込んだ言葉として、何がよいかをじっくり考え、「練習の成果を発揮し、思い出に残る運動会にしよう」という言葉にまとまりました。

では、どんな種目がふさわしいかを考えた際には、全校種目以外はあっという間に決まったのですが、「大玉送り」か「綱引き」のどちらがよいかで議論になりました。「安全面」や「目標との関連性」に着目しながら話し合いを進めていきましたが、決定には至りませんでした。

しかし、「安全面についてもやってみないと分からない」という意見が出て、急ではありましたが、担任 vs 6 年生で綱引きをすることになりました。私の想像では、負ける気がまるでしなかったのですが、いざ対戦すると私の体は一瞬にして引きずられるように床を滑っていました。悔しさから、先生の人数を 5 人まで増やしましたが、全く勝てず。やってみなくては分からないことがあるなと改めて思われました。

それでも、残る課題を解決していく必要がありますが、思い出に残る運動会を目指してもらいたいです。

<全校種目「つなひき」をどうやって行うか> 7 月 23 日（木）



10 月 17 日（土）に行われる運動会に向けて、6 年生が先頭に立って、企画・運営を行っています。学年・全校の種目を考えていく上で、全校種目として「つなひき」を行うことに決めた子どもたちは、A：親+子 vs 親+子か、B：親 vs 子にするか議論をしました。安全面の不安や保護者の数の心配等について意見が出され、学年ごとに、親と子の力の関係を吟味して B で行う方向で考えがまとまりました。今後も、子どもと大人（職員）で実際に綱を引いてみながら、実施案を作成していく予定です。子どもたちが創る「思い出に残る運動会」の実現に向けた取り組みが、一步一步前に進んでいます。

2 明北小『明科北認定こども園の園児が来校』 7月9日(木)・10日(金)



北園の子どもたちが、休み時間に小学校に寄ってくれました。園児は、校庭に出てきた小学生といっしょに、見たがっていた椎茸の原木、花壇に咲く背の高いひまわり、様々な野菜などを小学生といっしょに見て回りました。「また行きたい」と、翌日も、雲梯ミストを体にいっぱい浴びて涼んでいました。夏、明北小では、校庭の雲梯にミストが設置されます。暑い中、校庭で遊ぶ子どもたちにとって、とても気持ちの良い場所になっています。

小学生は、お兄さんお姉さんとして、手をつないで案内したり、見る物についてお話をしたりして、共に楽しい時間を過ごしました。日常的に関わりを持つことが、園児が小学校に親しみをもち、安心して小学校に入学することにも繋がるのではないかと思います。

3 明北小『地域の自然を活かして』 1学期

生活科でいろいろなところに出かけました。雷山は何度も出かけましたが、最近では5分もあれば到着してしまうほど、行き帰り等素早く行動していました。明科駅では、新しくできた水飲み場で休みながらいろいろな人に手を振って、振り返ってくれるとうれしそうにしていました。龍門淵公園にも何度か行きましたが、「かに」や「タニシ」など、行く道中でいろいろな生き物も見つけました。廃線敷きに行ったときには、「オオムラサキ(?)」の幼虫に出会いました。偶然生き物に出会う機会が多くあり、子どもたちも目を輝かせていました。2学期にもいろいろなところへ出かけ、さらにいろいろなものを見つけてきたいと思います。(2学年だよりから抜粋)

現在、様々な大きさの幼虫を教室のケースで飼っていて、さなぎになった様子も見えています。大量のフンを、日直さんと日々片付けています。また、「ジャコウアゲハ」という黒いアゲハが好むウマノスズクサを植えているので、たくさんのさなぎから、今盛んにアゲハが羽化しています。しかし、時には羽の形が不完全なものを目にすることもあります。自然の厳しい現実も学んでいる子どもたちです。また、教室の別の飼育ケースには、2ひきの「かなへび」がいます。クモを好んで食べるので、家からせつせと捕ってきてくれる子もいてありがたいです。ケースに入れると、すぐに気づいてパクッと口に入れて、もぐもぐと食べる姿が見られます。そのうちの一只が、先週の土日に、なんと卵を5つ産みました。生まれるまで一ヶ月くらいかかる、と調べてきた子がいます。さて、どうなるでしょうか？さらに、「ダンゴムシ」もいます。先日、生まれたばかりの2mmほどの透明な赤ちゃんを見せてもらいました。いのちにふれて、様々なことを感じ取っている子どもたちです。(3学年だよりから抜粋)

“探究(地域は「生きた教材」)”は、明科 TOCO-TON の柱の1つです。学校の敷地や近くの山や川には、様々な生き物がいて、子どもたちの心を引きつけます。生き物に出会うことで、思いも寄らぬ追究が始まったりもします。どの学年も、校舎を出て、地域の自然に触れる機会を大切にしています。